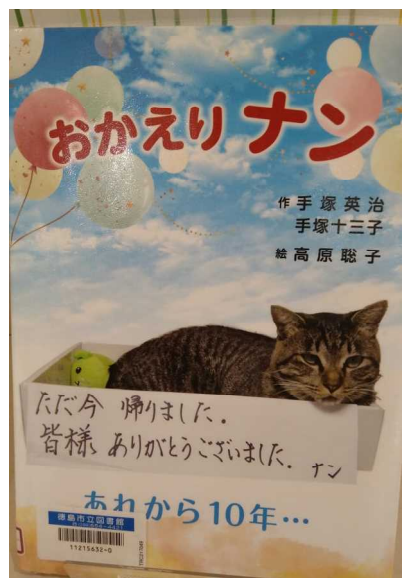


## 共産党鶴岡市議団 視察研修 徳島市の駅前図書館に、来館者多く 鳴門市は、年間100社を企業訪問

日本共産党鶴岡市議団（菅井巖団長）の視察研修が、1月25日から27日まで、徳島県と香川県で行われました。視察報告は、「新つるおか」に詳しく連載し、「民報」には概要を掲載します。

### 駅前図書館

25日出発時は大荒れの天気で、庄内空港は欠航。他会派の5人と共に10人乗タクシーで新潟駅まで行き、新幹線で東京駅へ。羽田から徳島空港に着いた時は夜になりました。早速、視察先の徳島市立図書館を訪問しました。図書館は徳島駅のすぐ前の「アミコビル」



↑徳島駅前の「アミコビル」内にある徳島市立図書館の5階子ども室  
←10年前行方不明になった猫「ナン」との再会を、市民が絵本にして貸出

内に2012（平成24）年度移転し、5階が子ども室、6階が一般室、蔵書数が約53万冊です。基本コンセプトが「人と文化が出会う駅前図書館」で、来館者数は移転後9年目で、500万人を越えています。ゆったりスペースに整理された豊富な蔵書。中には、自費出版された絵本が展示され、貸出はここだけの貴重な本もありました。

鶴岡市立図書館の移転改築に参考になります。

### 産学公民金の連携

26日は、徳島県鳴門市で、中小企業振興施策を研修しました。もちろん「中小企業

振興基本条例」がつくられています（鶴岡市は2021年9月議会で、自公会派が市長に抵抗して反対し否決）。鳴門市は、地元企業を成長させる環境を強力に構築しています。特徴の一つは「連携」。商工会議所や商工会などの「産」、大学等の「学」、県と市やハローワークの「公」、青年会議所や商店振興組合などの「民」、銀行などの「金」という「産学公民金」の連携強化で、新たなビジネス創出を実現しています。

2つに、市役所の職員が、年間100社を目標に、業務の一つとして地元企業を訪問し、感心しました。（2面につづく）

## 村の四季

32

鈴木重雄（八色木）

### 語り継ぐ戦時体験②

シベリアで命つないで日向寿一（八色木下区・大正12年生）  
入隊したのは10代で初年兵としての入隊だった。戦争が激しくなり、間もなく満州に渡る。お国のために歯を食いしばって懸命にやっていたが、隊長からは「頑張り足りないッ。軍隊のメシを食って何やってるッ」とぶん殴られ、人間としての扱いではなかった。

私は農家の長男で、子どもの頃から重労働には慣れていたからよかったです。高等教育を受けた人ほど、頭は良かったが体力がないため苦労したようだ。

私は衛生隊だった。鉄砲の小さな部品を落ととしても「天皇陛下からのお預かり物だ。探せ」と、厳しい命令の中、探し回った。

いざ戦争が激戦になれば、高官たちは最後列に姿を隠して何もなかったようだ。怒られ、殴られ、物事を正しく導き処理することのない、最悪の日本軍隊だった。中には広い心で部下を護ってくれた上官もいたが、そして終戦。

昭和20年8月、ハルピンの駅から3日3晩走って着いた所が、シベリアの捕虜収容所だった。

日本は負けた国。収容され、働かされて当たり前のことだと、自

分に言い聞かせて、真面目に良心的に働いた。酷寒のシベリア、耐えられないと思った。人間の排せつ物はすぐにカチンカチンに凍る。土木作業や炭鉱の仕事の人たちは、主食のコーリヤンが合わなかったり、零下30度の酷寒に命を落とした人たちが大勢いた。

私は幸い働きぶりが認められて、上級幹部の番人を命ぜられた。幹部の護衛をしながら、同じ風呂に入れて、感謝の日々を過ごす事もできた。日本の軍隊からは怒られ殴られ、心身ともにポロポロになっていたのに、捕虜になって安堵した私だった。

いよいよ日本に帰る日が来た。上官は私を呼び、「このままシベリアに残って働いてくれないか・・・そうしたら家をもたせるし、奥さんも世話するから」と言われて驚いた。私は正直に、日本で両親が首を長くして待っている。地主だった家を守りたいと言った。

上官は上級煙草をくれて、飯盒で米を炊いて食べるようにと、上級官の証明書をつけて、「これを持って帰りなさい」と手渡ししてくれた。恐縮し深々と頭を下げて別れた。

日本人の軍隊よりやさしく、人間として接してくれたから、今があるのだと思う。昭和22年、故国の地を踏む。

# 市民がまるごと相談できる、高松市の福祉

(1面からのつづき)  
鳴門市の地元企業訪問では、問題や課題を見つけて、支援施策に結びつけます。

その成果が「鳴門市がんばる中小企業応援パッケージ事業」で、販路拡大など各種補助金制度を創出していきます。

地元企業を応援する環境づくりは、どの地域にも負けないという自負に学びました

## 重層的支援体制

27日は、香川県高松



高松市議会の議場において

市の福祉施策です。

国の社会福祉法が令和2年、一部改正され、「重層的支援体制整備事業」が創設され、3年4月1日から施行されました。

住民の支援ニーズが複雑になってきていることから、従来の支援体制では対応できないとして、分野を超えた部局横断的な連携体制をつくるとしています。

高松市では、市民が話しやすく、分かりやすい、身近な「つながる福祉相談窓口」を、各地域の総合センター(支所)に設置。相談

支援は、「まるごと福祉相談員」が市社会福祉協議会に委託され、15人が配置されています。暮らしのどんな困りごとにも対応できる仕組みづくりにより、力を入れていきます。

鶴岡市の「重層的支援体制整備事業」は、地域包括支援センター11か所で体制をつくり、「地域生活支援会議」を開催し、「地域福祉ワーカー」を配置するとしています。

高松市の「まるごと福祉相談員」というネーミングが、何でも相談できる感じで良かったです。

高松市では、相談員のアウトリーチも行い、困っている市民に出向いて相談に乗っています。

帰りは庄内便欠航で、夜行バスになりました。

## ひと

### 村山俊太郎・ひで夫妻

青山 崇

#### 俊太郎と日本共産党 ⑤労働葬と俊太郎の党員魂

「俊太郎は、1948年12月9日0時55分、時代を全方で生き抜いたドラマに満ちた生涯を閉じた。葬儀は、十二月十一日だった」と

俊太郎は書き、『著作集二』に7つの弔辞が収められているが、教え子代表・金子静江の弔辞が抜けている。国分一太

郎が借りて返さなかったというのだ。

金子は、1957年「想い出の中から」という短文、要旨はおそらく弔辞で語った思い出ではないかと俊太郎は言い、一部を紹介している。そのまた一部である。

「教室の中で、先生と生徒として向き合っていたのは、たったの二年間だったが、それ

員会、村山地区委員会、県教祖執行委員長、県教祖東村山郡支長、天童小学校長、そして共産党県委員2名であった。その中から党員・村山俊太郎を挙げる。

「日本共産党村山細胞群(現・支部)の中心に君はいた。やせ細った手でしっかりとマルクス・レーニン(現・科学的社会主義)の党、日本共産党の旗を握りしめてきた。今のおれにできるただ一つの人民への奉仕だ」と、「長岡さん、党をたのむ。妻も子どもも、

## 深い繋がりを正せ

大変な悪評だった、何を調べたのか分からない自民党の統一協会との関係調査。これに漏れていたのが安倍晋三元首相と細田博之衆院議長。議長は党を名乗れないから自民党の調査からはずれたというが、それならば自ら進んで実態を語らなければならぬ公人だろう。それを議長だからと逃げてきたが、24日に各党の代表者に少しだけ語ったんだ。

▲これだって公開で記者の前にして喋ったんじゃないから、まだ逃げていけるんで許せない。しかも、議長だから議員時代は話せないと言ったらしい。これじゃ詳しい事を語ったことにならない。仮にも、自民党が関係を断つと宣言したんだから、どんな事をやってきたのか明らかにする責任が

みんな党に捧げると。宏君も奥さんも、手を重ねて握りあって泣いた」

「氏、不幸にして病篤く県教祖の幹部を退いて自宅に療養の日を送る。病床にあって党員を指導し、窓に壁新聞を貼って大衆に教え、氏を中心として一家こぞって党のためにたたかった。氏こそが人民解放のため、真の人民の教育と文化のために献身的に闘ったまたと得がたい共産主義者であった。」

ある。

▲彼らをどのように勇気づけて来たのか。帰ったら安倍首相に報告する・と言ったのは、リップサービスで報告はしていないと言った。それだって本音かどうかだが、リップサービスだってどれ程彼らの励ましになったか。

▲なにせ、民主主義の根幹である選挙まで差配してきたんだヨ。彼らの願いから、こども庁がこども家庭庁になったとも言われているんだからサ。これは、周到に、地方議会からの積み上げが功を奏したと言われている。

▲地方にも長い繋がりがあがるが、議長は「安倍元首相は、大昔から関係が深い」と暴露したとの事。そんな深い関係は、三代の死んでわかった裏仕事で、岸信介元首相からという。一つの命に係ったんだから、アベも徹底究明を。(石川)